



2007～2008年度  
国際ロータリーのテーマ  
RCは分かちあいの心  
2007～2008年度  
『ウィルワールド』、『ウィルキンソン』

# Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)11月10日  
会長：岩本 成郎  
幹事：西本 哲  
クラブ広報委員：亀井 直人  
例会日：毎週木曜日 PM12:30～  
会場：ビルトシ名古屋  
事務局：460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3  
ビルトシ名古屋910号  
TEL：052-211-3803  
FAX：052-211-2623  
MAIL：2760nagoya@mizuho-rc.jp  
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1367回例会

～ロータリー親睦活動月間～  
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2008年6月5日(木) 曇 第43回

司会：稲垣 豊会場委員  
斉唱：「君が代」「奉仕の理想」  
ゲスト：米山奨学生 陶静さん

### 会長挨拶 岩本成郎会長

一日本の人口は—  
縄文初期の日本人の人口はわずか2万人だったという記録があります。それから1万年、2000年の国勢調査速報値では総人口が1億2千691万1288人に増えました。「人口から読む日本の歴史」(講談社)が、列島の人口変化を表にまとめています。



稲作が始まった弥生時代から人口が増加し、平安時代には約600万人。その後増加と停滞を繰り返しながら江戸時代には3000万人前後に落ち着いています。明治以降、工業化に支えられて人口の成長は急上昇を描きます。100年前の1900年に推計4600万人であった人口が今では約3倍になり、この50年では約15倍となりました。世界的にも20世紀はまさに人口爆発の時代であり、1900年16億人、1950年に25億人ときて1999年に60億人を越えました。日本人をはるかに上回る伸びです。

人口の国際比較でも日本は、95年の国勢調査で中国、インド、米国、インドネシア、ブラジル、パキスタン、ロシアについて第8位だったのが今回増加率の高いバングラディッシュに追い抜かれて第9位になりました。日本人の近年の伸び悩みは、ドイツの研究所の調査からもわかります。各国の国民の平均年齢を見ると世界の平均が26歳であるのに対し、日本とイタリアが40歳と世界一高くなっています。このまま少子高齢化が進むと、先の予測では2050年には1億人、2100年には6700万人に減ります。現在の労働人口を確保するには、大量の移民を受け入れるか又は定年の大幅延長が必要との分析があります。人口がほぼピークの今こそ、すべての備えを考えなくてはなりません。すでにインドネシアから看護師養成の働きかけも始まっております。

### 出席報告 泉 憲一出席委員

会員72名 出席50名 (出席計算人数52名)  
出席率76.9% 5月29日は補填により 96.9%

### 幹事報告 西本 哲幹事

・本日、例会終了後第12回理事会を開催致します。9階「ことぶきの間」です。

・次週6月12日(木)は次年度予定者会議です。13時35分から6階「けやきの間」です。  
・今月よりクールビズです。ノーネクタイで結構です。

### 臨時例会変更のお知らせ

名古屋西		6/19(木)	6/26(木)※	
名古屋北		6/20(金)		
名古屋守山		6/18(水)		
名古屋東南			6/25(水)	
名古屋中		6/16(月)※		6/30(月)
名古屋和合	6/11(水)			
名古屋名東		6/17(火)	6/24(火)※	
名古屋名北		6/18(水)※	6/25(水)	
名古屋千種		6/17(火)※	6/24(火)	
名古屋大須	6/12(木)※		6/26(木)	
名古屋名南		6/17(火)※		
名古屋名駅			6/25(水)	
名古屋昭和				6/30(月)
名古屋西南			6/26(木)	
名古屋錦			6/24(火)	
名古屋葵	6/12(木)※	6/19(木)※		
あま		6/16(月)※		
名古屋空港	6/9(月)※			6/30(月)
尾張中央		6/18(水)		
名古屋城北			6/24(火)	
名古屋清須	6/10(火)			

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

### ニコボックス 泉 憲一ニコボックス委員

- ・昨日は私の誕生日。大変素晴らしいお花を送っていただきありがとうございました。私も年ですので、何分よろしく御願ひします。 嶺木 一夫さん
- ・先月の誕生日に出捐を忘れておりましたので。高村 博三さん
- ・月日のたつのは早いもので、又誕生日が来てしまいました。 長坂 邦雄さん
- ・6月1日は71才の誕生日でした。 平野哲始郎さん
- ・6月13日は61回目の誕生日です。 松波 恒彦さん
- ・6月3日の女房の誕生日に素敵なお花を有難うございました。又、野崎さん、内田さん、堀さん南山でお世話になりました。 入山 治樹さん
- ・欠席が続きました。先月女房の誕生日でした。泉 憲一さん
- ・6月14日は結婚記念日です。 高木 勝さん
- ・6月6日は結婚記念日です。なんとか、仲良くやっています。 田中 英雄さん
- ・お久しぶりです。田中さんに引っぱられまして。大川 嘉成さん
- ・本日の卓話を担当させていただきます。よろしく御願ひします。 天野 正明さん
- ・梅雨本番となりました。夏風邪に気をつけましょう。 岩本 成郎さん

## 6月誕生日おめでとう

平野哲始郎さん 嶺木 一夫さん 遠山 堯郎さん  
松波 恒彦さん 倉澤 寛さん 長坂 邦雄さん  
梅田 朋嗣さん

## 委員会報告

### 親睦活動委員会:長坂邦雄委員長

早いもので下期もあと1ヶ月となりました。先週のメールボックスに入れましたが下期納会(反省会)を6月26日「松楓閣」にて行います。アトラクションでは歌手の山本みゆきさんをゲストとしてお迎えします。ご期待下さい。

### 米山奨学委員会:馬場將嘉委員長

米山奨学生の紹介をさせていただきます。2760地区の2008年4月から2009年3月までの奨学生である陶静さんです。中国の内モンゴル出身の方で、現在中京大学の経営研究科経営専攻で修士課程を勉学中です。これから毎月1回例会におみえになりますので皆さんよろしくお願ひ致します。

## 米山奨学金授与



米山奨学生の陶静さんに奨学金が授与されました。

### 米山奨学生 陶静さん挨拶



陶静と申します。中国の内モンゴルから来ました。日本は8年目ですが日本の知識についてはまだまだ不足で、これから皆さんに教えていただければありがたいと思っています。そして皆さんにお会いできたことをうれしく思っております。これから1年間よろしくお願ひします。

## 卓話

天野正明さん

### CLPについて



皆さんこんにちは。

私は今年度地区のクラブ奉仕委員会に出向させていただいており、その関係でCLP(クラブリーダーシッププラン)についてこの一年間関わってまいりましたので本日はそのことについてお話ししたいと思います。

CLPという言葉自体、非常にとっつきにくく日本語になじまないロータリー用語であり、色々読んでもピンとこない。そういう抵抗感が皆さんあると思います。

ロータリークラブの会員数は世界中で1995年から下降しており、会員を1人確保するのも一筋縄ではいかないという由々しき事態です。日本では30%ほど会員が減っており、その数字は世界でも飛び抜けています。瑞穂RCでも最盛期から32人減っております。1995年というのは、1990年のバブル崩壊から数年して日本経済に影響が出てきた頃であります。会員減少の理由としては、インターネットの普及・自然界の激変など社会変化の影響があげられるのではないのでしょうか。時間軸が非常に早くなってしまったため、今まで我々が持っ

ていた狭い中での人間関係に対する魅力が薄れてしまったように感じます。ロータリークラブに限ったことではありませんが「共同体」というものに参画する価値が大きく変わっているようです。

それを立て直すためにCLPが打ち出されました。1999年11月に公式に発表され、2005年8月に各クラブへ配布されました。2004年から2005年というのはロータリー100年の年であり、その年にこれから先ロータリーが生き残れるかということを考えるために打ち出されたものであるようです。

CLPとは、魅力的なクラブにするためにはどうしたら良いかということをしてRIが提案したものです。魅力的なクラブになればどういう方法をとってもいいのです。定義として「会員基盤の維持・拡大」「地元地域社会ならびに他の国々の地域社会ニーズを取り上げた奉仕プロジェクトの実施」「R財団への財政的貢献」「クラブの枠を越えた指導者の育成」とありますが、この通りにやらなければならないのかというと、そういうわけではありません。

現在「ロータリーの友」という月刊誌が発行されていますが、これを発行している委員会の委員長は茅ヶ崎湘南RCの神崎さんという弁護士の方です。私が幹事のとき茅ヶ崎湘南RCの30周年式典に出席したことがあり、そのときにいただいた30周年特集という小冊子の中で神崎さんがたまたまCLPについて話されていたので読ませていただきます。『CLPは、RIから言われたのでやらなければならないことだどこのクラブも考えています。これが一番根本的に間違っており、いいか悪いかをクラブが主体的に考えるという姿勢が本当は必要なのだろうと思います。そういうのはどうも日本人には向かないようで、言われたから嫌々検討するという受け身の姿勢です。「こんなものが出てきたけどうちのクラブではどうするのか」と主体的に考えることはほとんどしません。どうするのかを決めるのはクラブなのです。この間ボイドRI会長が「日本の人はRIが何か言うと真剣に義務のように考えてしまいますが、よその国はもっとのんびり考えている」ということをはっきり言っていました。国民性や民族性の違いもあるので無駄な委員会をなくすのはいいのですが、ネガティブになくすことに神経を使うよりも、今クラブで何が必要なのか、誰が何を担当するのかと考えていけば、CLPというのは今RIが考えているものとは全く違った道をたどってクラブの活性化につながっていくのではないのでしょうか。』

例えば今は会員の入会の条件として、クラブの会員数が50人以上の場合はその職業の人に対して1割の人数を入れることができ50人以下の場合は5人までという形になっています。瑞穂RCを例にとりますと、会員が72人いますから私と同じ職種の人を7人まで入れることができるわけです。そういうことが、今まで非常にロータリーが大事にしてきた一業種一名ということを根幹から壊してしまい、先輩方は非常に憤っています。ところがドイツでは相変わらず一業種一名でやっているところが多くあるそうです。つまり、各クラブで「このクラブは一業種一名しか入れません」と決めてしまえばそれでいいのです。しかし日本はRIや地区やガバナーの言うことを全て受け入れてしまっているため、主体性がなくぐちゃぐちゃになってしまう危険性があるのです。

本日は、瑞穂RCはどういうふうなのかという比較対象のための資料をお配り致しました。これが我がクラブの現状でありますので、時間のあるときにでも目を通してください。ありがとうございました。

## 今週卓話

6月12日(木)

卓話講師:株式会社北見式賃金研究所所長 北見昌朗さん  
テ - マ:信玄・謙信に学ぶ事業継承

## 次週行事

6月19日(木)

テ - マ:第5回クラブフォーラム(次年度行事予定)